

日本リンパ網内系学会
学術企画委員会 議事録

日時：2017年6月29日（木）13:30～14:25

場所：京王プラザホテル本館 42F 津久井

出席者：鈴木律朗（副委員長），坂田麻実子，伊豆津宏二，竹内賢吾，三好寛明

欠席： 大島孝一（委員長）

議事

1. WHO分類2016病型名称日本語訳について

- 竹内賢吾先生を中心に、学術企画委員会メーリングリストでリンパ腫病型の日本語訳が作成された。
- 近日中に、リンパ網内系学会ホームページで公表される予定だったが、Blood 2016とBlue Book版では変更がある様子。2017/9にBlue Bookが刊行されるので、正式発刊を待って修正し、公表予定。
- 公表後、2か月程度はパブコメ期間として、会員内外からの意見を受け付ける。それほど多くはないと考えられるが、意見を見て適宜判断。
- 来年度学会総会で、可能なら枠をもらって広報を兼ねた発表を行う。
- 日本医学会には、用語委員である富田直人先生から報告してもらう。

2. 濾胞性リンパ腫に関する前向きコホート研究

- 伊豆津先生が以前から提案している研究で、企業からの資金提供に関する問題点をクリアにする目的と、広報の観点から学会主導で実施することになった。
- 研究計画書はほぼ確定し、学会・企業・CROの間で契約締結中。
- 手続が終了し次第、速やかに会員に案内する。現時点では、本年秋には開始できる見込み。非会員施設からも登録を募る。

3. その他

- 本学会のホームページ担当は、当委員会であることが確認された。
- ホームページで、学会の会議議事録などID/PWでブロックされているコンテンツが、ID/PWチェック後のページにダイレクトにアクセスすることが可能になっていることが報告された。検索エンジンなどでアドレス収集もされているため、ネット検索で結構上位に表示されているのが現状である。Web管理会社に対応を依頼することになった。

- 若手学会員から、本学会の一般演題口演の一部は英語で実施してもらいたいと希望がある旨報告された。学術の国際化をふまえ、英語発表の機会確保と練習になるという観点から、プログラム委員会で要望することになった。
- 学術企画委員会としての新企画は具体的な提案はなかったが、FL研究が動き出せば、次の企画を考えていくことになった。

(以上)